

学校名	新座市立片山小学校
実施日	令和3年1月13日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、主体的に学ぶ児童の育成を目指し、めあてを示し見通しを持たせ、振り返りを次時に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルで各教科の学習を進められるよう心掛けています。 ・学力向上プランがわかりやすい。 ・一人一人の教員の意識が高い。 ・振り返りを行っているが、毎時間行うように改善する。 ・振り返りの生かし方は課題である。 ・教科で差がある。総合的な学習の時間は、年間計画を精査し、見通しがもてるようにする必要がある。 	B	タブレットを積極的に授業に取り入れ、有効に活用している。一人一人の教員の意識も高く、学校長を中心に共通理解をもって主体的に学ぶ児童の育成に全力で取り組んでいる。新型コロナウイルスへの対応をしながらの教育活動であったが、学校としてでも努力していた。今後、全教科に安定した振り返り学習が課題となる。
2	学校は、児童一人ひとりが、自分も友だちも大切にできる豊かな人間関係の構築に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、行事もあまりなく、人間関係構築が難しい中で、担任は様々な工夫で構築していると感じる。 ・言葉やディスタンスなど、改善点あり。 ・更に、一人ひとりを認めるために行動させ、見届けをするよう、今後も努めていく。 ・学力、感染症対策に追われ、担任に任されている所がある。 	A	新型コロナウイルスの影響で新学期から臨時休校となり、授業時数確保・感染防止の観点から各種行事もなくなり、児童同士のかかわりあう場面が十分に機能させることが難しかったと思われる。しかし、管理職を中心に各学年で様々な工夫を凝らし最善の努力に務めていた。
3	学校は、児童の安全、安心のための環境づくりに努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、管理職が外に立ち、いつも児童に向き合っている姿があると感じる。 ・いつもていねいで安全な環境づくりに努めていると感じる。 ・保健室や相談室等で児童の安心のための環境づくりに努めている。 ・コロナ関連については他校のどこよりも力を入れていると感じる。 ・消毒等、安全対策を行っている。 ・校内の安全点検、悪天候の予防などを行っている。 ・感染対策の意識を子どもにもたせる。 ・掲示物やロッカー等見やすく、使いやすいです。 ・環境は作っているが、生徒指導上の課題を解決してこそ生きてくる。 ・保護者が自由に児童昇降口から出入りできている様子が見られるので、チェックを受けてから校舎に入るようになると良い(来校者カードに期待) 	A	校長のリーダーシップのもと、全教職員のチームワークにより児童の安心・安全のための環境づくりに積極的に努力している。コロナ感染防止のため、校舎内の消毒作業・保健室や相談室等々、環境づくり、校内の安全点検・児童への向き合う姿勢など限られた時間の中で最大限の努力をし、その成果を発揮している。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の体制が明確で協力体制が取りやすい。 ・適切に動いている所もあるが、連携がとりにくいところがある。また、PCDAサイクルを意識しているが、苦戦している。 ・定時を過ぎてから会議が行われることがある。 ・分掌により差がある。 ・全体共有すべきものが、共有できると尚良い。 ・主任だけで進むことも多く、仕事の分担ができればよい。皆忙し難いと感じる。 	B	教職員の働き方改革を目指し、新たな校務分掌組織を明確にし、積極的な協力体制ができています。個人の負担軽減がなされた反面、分掌組織間の意思疎通、組織間の隙間をどう埋めていくかに課題が残る。特に今年は急なコロナ対応への取り組みにご苦労が見られた。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ対応で急な変更があるが、よく対応していると感じる。 ・意識の差が見られ残念である。お互いに注意していきたい。 	A	コロナ感染防止対策という思いもよらぬ出来事に対して、全教職員で素早い対応が取れたことは評価できる。学校運営のあらゆる場面に対応できるように、これからも教職員一人一人の意識改革が望まれる。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル、役割が設定されている。 ・新たな課題への対応が必要である。 ・不審者対応を今一度共通理解したい。 ・マニュアルの内容まで理解できていないので、しっかり読んでおくべきだと感じる。 ・不審者対応をさらに明確にすべきだと感じる。 ・不審者対応等の仕方が分かった。 	A	校内研修の充実に伴い、教職員の危機管理意識は高まってきている。各種マニュアルの見直しもおこなわれ、より充実したものとなっている。今後さらに、それらが生きて働くように具体的な場面を想定して、日ごろの訓練の積み重ねがさらに必要となってくる。学校でできることには限界もあります。保護者・地域住民そして、他の各種教育機関との連携が大切である。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会が中心となり、片山小としてのルールがしっかり定着してきた。 ・研修を中心に授業スタイルが若手にも伝わっていて、全体的に同じ授業スタイルが伝わっている。 ・ルールを明確にする。ルールがあいまいなので指導が統一できず学級によってぶれが生じている面がある。 ・今年度はマナーを指導している。学習”ルール”は設定されていないのではないかな。 ・物理的にルールが守りにくいこともある。 ・実態、学年に応じたルールを検討すると良い。 	B	学校としての学習のルール・生徒指導のルールについては、教職員の努力により浸透してきている。しかし、学年・学級によって取り組みにばらつきがある。まずは学年・学級での定着を目指すことが大切である。特に今年度は、「マナーがあつてルールがあり、いかにされる」という考えで取り組んできている。この考えをさらに発展させる努力に期待します。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の知識を増やし、授業に取り入れていく。 ・コロナウイルス対策をする中でも努めている。 ・意識的に設定して指導している。 ・シールドが導入されたことで、児童の活動に幅が広がった。 	B	コロナ感染防止対策の中での授業展開を工夫して取り組んでいる。限られた活動範囲の中で、言語活動を重視した授業展開に勤め、その成果を発揮している。その成果に手ごたえも感じつつ、教育活動への歯がゆさも感じていると思う。また、授業改善への課題も自覚しているので、さらなる取り組みに期待します。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行っているが自身に課題があり。 ・学級差、教科差が見られる。 ・低い学力児童へのすくい上げは、改善する必要がある。 	B	校内研修を通して、全教職員で効率よく共通理解・共通指導へ向けて努力している。しかし、個々の児童に即して具体的に対応するには、課題が残る。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を精査し、進めている。 ・学校で統一した英会話の授業の実施している。 ・1年生から外国語活動を行っており、充実している。 ・本年度は、支援級の外国語の授業が年間10回に減ったので、昨年度と同様に週1または2週に1回あるとよい。 ・もう少し英語に触れる機会が増えるといいと感じた。 	B	従来より英会話教育を行っており、学校として統一した授業が展開されている。学習指導要領の改訂に伴い、従来市として取り組んできた国際理解教育としての英会話教育との違いがみられる。特に、高学年では教科としての扱いとなり、大文字・小文字の文字指導・語順の違いや文の構造も指導することとなった。これらの変化に対処すべく、全教職員の指導体制を確立することが大切です。今後とも、スキルアップへの取り組みに期待します。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、よくできていると思います。ただ、こちらから挨拶をして返ってくることが多いので、自らできるようにになれば、さらに良くなると感じる。 ・場に応じた言葉遣いは、機を捉えて行っている。 ・完全には定着していない。少しずつ定着しつつある。 ・昨年度までは学年によってしっかり挨拶できていたが、新しい生活様式の中で「場に応じた挨拶」が、子どもにとって難しく定着しない。 ・教員間で温度差があり、子どもに指導が入っていない。 ・教員自身が挨拶や言葉遣いを正していく。 ・コロナ対応で指導が難しい。 ・挨拶については課題を感じる。会釈等、状況に応じた挨拶ができるよう指導していきたい。 ・場に応じた挨拶の意識付け。 	B	教職員が率先して、保護者・来校者によく挨拶している。自ら手本を示し、行動ができています。下校時や校外でも挨拶をしてくれる児童も増えてきている。新しい生活様式が求められるようになってきている。「場に応じた行動・挨拶や会釈等」状況に応じた対応の大切さについても、理解を深める指導が必要となってきている。日常生活の中で、具体的場面をとらえて適切な指導に期待する。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターとの協体制制がとれていて、多くの目で指導ができています。 ・問題行動等がみられるが、その都度、個別に指導している。 ・ほとんど達しているが、休み時間の言葉遣いが気になることがある。 ・学級経営力、生徒指導力によるところが大きい。教員の資質向上が求められる。 	B	いじめ問題対策委員会・生徒指導担当教員・特別支援コーディネーター等、組織的な活動の環境整備が整っている。問題が発生しても、その都度個別指導で、素早い対応も行っている。児童の抱える問題は複雑・多様化してきている。現状に安心することなく、最新の注意を払って引き続き全教職員で指導に当たっていただきたい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が常に規範となる行動をとっていると感じる。 ・挨拶など、手本になるよう努めている。 ・意識をもって指導にあたっている。 ・自分自身、言葉遣い等まずかったと感じることがある。 	A	校内がきちんと整理・整頓されており、清潔さを感じる。教職員の皆さんからは、教職に携わる責任感を感じる。率先垂範がよい手本となっている。今後とも、充実した指導に期待する。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応での活動が充実できておらず、情報収集・提案を積極的にしたい。 ・コロナ対応で難しい中、よく考えながら取り組んでいると感じる。今後もできる範囲で続けていく。 ・今年度は難しかった。コロナ対応の中で児童の体力低下を少しでも戻すように工夫をしている。 ・体育部中心に、なわとび朝会、体育の工夫等、功を奏している。 ・業間なわとびの参加率が低いと、外に出しづらい。 ・業間なわとびは、教員も出ていないことが多い。実施するなら声掛けをすべきだと思う。やってもよい程度であれば、枠を作らず自由にやらせるぐらいでよい。 ・感染症予防の中で、タイムランチャレンジに取り組んでいく。 ・朝なわとび等、体力向上のために工夫している。 ・外遊びの日でも送り出しきれていない。(高学年は特に教室にいる子も多い) 	B	コロナ感染防止対応の中で、多くの制約があり、従来の活動が困難であった。しかし、よく考えながら様々な活動を取り入れ、体力向上に積極的に取り組んでいる。朝マラソンにかわり、朝縄跳び・タイムランチャレンジなどとても有効に行われている。担当の先生の過重な負担にならないように配慮することも必要である。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の食材の調達など様々な工夫をされていると思う。(牛肉や魚等) ・新しい生活様式での食で精一杯で、食育までいけていない。 ・マナー意識の指導が大変だった。 ・今年度は給食の食材の下準備等、子どもがかかわる機会がないため難しいと感じた。 ・コロナ対策のため、残食に関する指導は難しい。 ・学校と問われると、Cかなと思いました。コロナの時代に「食の意識を高める」のも難しいです。するのであれば、委員会等を活用し、情報を発信したり、調理員さんとコミュニケーション(Meetなど)をとれるといいのではと思います。 ・残食がなくなるような意識の向上 	B	食の安全に配慮し、栄養バランスを考えて工夫された給食が提供されている。新しい生活様式の中で、従来の食育・食に関する意識の向上などの取り組みが十分に機能させることができなかった。マナー意識の向上に務めるとともに、食に関する意識を高める指導が今後の課題となる。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に届く情報に担当の先生がすばやく対応していると感じる。 ・管理職を中心に対応してくださっている。 ・一方的な要求要望も多く、学校で対応すべきものを対応している。 	A	保護者や地域の意見を取り入れる機会を積極的に設け、適切な対応がされている。さまざまな意見や要望について、学校の方針や活動の意図などを具体的に説明し、相互理解を深めている。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・常に最新の情報があがっていて子どもたちの活動の様子がよく分かる。 ・ホームページが見やすくなっていた。教育活動の様子を多く発信できている。おたより等も統一された形があるので、作成しやすく助かっている。 ・学校だよりがとて読みやすい。学校での取り組みがわかりやすく示されている。 ・休校中、パワーポイント等の掲載を行っていた。 	A	今年度は特に、意味のある適切な情報の発信が多く学校への期待感も膨らんだ。臨時休校時の学習サポートとしてホームページを活用し様々な発信がされてきた。学校だよりが定期的に地域に回覧され、内容も具体的にわかりやすく、困難な時期の学校の様子を理解するのに役立っていた。今後とも、ホームページの内容や更新・活用の工夫に期待している。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス対策をする中で、ベルマーク等協力してくださっている。 ・できることを行っている。 ・今年度は難しかった。 	B	さまざまな学校行事が中止となるなど、大勢の人々に来てもらう活動を展開することが困難であった。しかし、図書ボランティア、グリーンサポーター、ベルマークの皆さんなど、学習環境整備に活動をしていた。学校からも、緊急に対策を講じるなど、情報の発信も適切に行われていた。これからも学校応援団の理解を広めるとともに、一層の連携・充実に努めてほしい。